

県内版

特支校生の就労支援もっと

筋肉を動かさせなくなる「脊髄性筋萎縮症」と診断され、ほぼ寝たきりの生活になった。働ける会社が見つからなかったため、県立看護専門学校(現特支)高等部卒業後の一年、ホー

ムーシジや名刺の製作を請け負った。卒業後の進路は、進学や一般就労、就労継続支援A型などの福祉事業所がある。二〇二二年三月に県立特支を卒業

して一般就労した生徒の割合は35・6%。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で障害の有無に関係なく企業が採用

を控えたため、前年比で2・6%下がった。県教委は三年度までに50%とする目標を立てる。企業

を回って採用を働き掛ける名がある人が活躍できること、校の就労アドバイザーを増や

働いて社会と関われることを発信していきたい」と抱負を述べていた。また県教委は、テレワーク

上や生徒の選択肢を増やすために、佐藤さんの力を借りることで、佐藤さん(東京都)とも

県教委は本年度、特別支援学校に通う生徒の一般就労の拡充に向けた取り組みを強化する。「県立特別支援学校就労促進アドバイザー」のポストを新設。難病を患いながら

も会社を経営し、「寝たきり社長」のニックネームで知られる佐藤仙務さん(三〇)＝東海市＝に委嘱した。

「アドバイザーを委嘱された佐藤さん(手前)＝県立



(戸川祐馬)

県教委 促進アドバイザー新設

「寝たきり社長」佐藤さん委嘱

佐藤さんは、生後十カ月で

包摂協定を締結。在宅就労の